

## 東沢 釜の沢東俣沢登り山行報告書

(山域) 奥秩父 笛吹川水系

(コース) 西沢溪谷入口駐車場～山の神～魚止めの滝～両門の滝～甲武信小屋～  
甲武信ヶ岳～甲武信小屋～駐車場

(日時) 9月10日(土曜日)～9月11日(日曜日)

(天候) 9/10: 快晴 9/11: 曇り(一時青空見える。)

(参加者) CL: 内堀(記録)・佐藤・時田・小宮山

(山行タイム)

9月10日(土) 駐車場 6:40～山の神 9:25～魚止の滝 12:00～両門滝 14:00～広河原 15:00

9月11日(日) 広河原 6:10～甲武信小屋 10:50/12:50(甲武信ヶ岳ピストン)～駐車場 16:50

(山行報告)

9月10日(土)

小宮山車にて千葉駅北口で集合して21:30頃出発する。穴川ICより湾岸線・首都高・中央道を通り、勝沼ICには23:30頃通過する。コンビニで朝食と行動食を購入して、道の駅「みとみ」に向かう。ここでテントを張り軽く宴会して就寝する。翌朝、起床してみると我々以外にテントが3張あった。朝食後は準備を済ませ、西沢溪谷入口駐車場に止める。この駐車場には何組かは沢準備している方がいて、人気あることが伺えた。実際沢に入ると4-5組は東沢を楽しんでいた。西沢溪谷に向かう林道を歩き、徳ちゃん新道入口を過ぎ、橋を渡り沢の脇を歩くと対岸に行くため、ようやくここで沢準備を行うが、沢靴の中敷を忘れてしまい。しっくり来ないと思いながら、沢準備を済ませた。渡渉後は旧道(現在は廃道)を歩き続け、アップダウンを繰り返しながら進むと、山の神手前に出て来た。ここで1本取り、本格的に沢に入るのはこれからである。ホラ貝のゴルジュは何時見ても大きく、美しい。立派であった。

その先は、何十回も沢を横断しながら進むと、乙女の沢・東のナメ沢・西のナメ沢が出て来て、少しずつ水量が減っていく。まだ付かないのかなと思いながら進むと、魚留滝が出て来た。

ようやくその先が、釜の沢である。手前で昼食を取り準備を済ませ、いざ出発である。

去年は灌木が立て掛けてあり、その上に乗って上がった記憶があったが、今年は灌木が流されていないため、カラミにて小宮山さんを私が肩車してから、登って頂き、上からロープを出し登る事にした。全員無事通過出来良かった。他の組もロープを出してごぼうで上がって来ていた。

その先は、釜の沢で有名な千畳のナメである。何時見ても綺麗である。ここで記念撮影。

千畳のナメもすぐ終わってしまうと、7m・3段5mの滝を巻くが結構垂直に近く、木の枝が丁度良い具合にあり、無事通過する。1.5H程度で両門の滝が我々を迎えてくれた。ここで記念撮影。此処までは本日のハイライトであり、見応えがあった。両門の滝は右側踏み後を辿りながら、巻いた。その先は、ヤゲンの滝を右側から巻いて登り、8m斜め滝を左側から巻くと広河原が出てくる。斜め滝を巻く途中、小宮山さん、佐藤さんは黒スズメ蜂に2ヶ所刺され、吸引器で吸い込み薬を付けた。それでも痛いらしく淀んでいた。私は2週間前の真名井沢で同蜂に遭遇して8か所同時に刺され、沢登り出来るのであろうかと思い、1時間進むものの、途中断念して下降した記憶が蘇った。広河原では2組が既に陣取っていた。我々は良さそうな場所を選び、テントを張り、着替え、薪集め、料理の準備と進んでいく。料理は棒棒鶏と具沢山トマトスープ、後は副菜である。食事が出来た頃見測り、焚火の準備に取り掛かる。初めの頃はか細かった火も徐々に強くなり、大きい木に付いた後は、食事をしながらのお酒は格別であり、ビール・チューハイと進む。ウイスキーに手を付けた頃には日が落ち、焚火の明かりと沢の流れる音を聞きながらの宴会と進んでいく。女子二人は途中より焚火に必要な小枝を回収し燃やし続けていた。寝小便するくらいのいじり方であった。20:00を過ぎたあたりで急激に睡魔が遅い、お開きとしてテントの中に入り、寝袋に収まり、そのまま、1分もしないうちに寝てしまった。イビキが酷かったのか心配。

テントの中も意外と涼しく、気持ちよく睡眠できました。



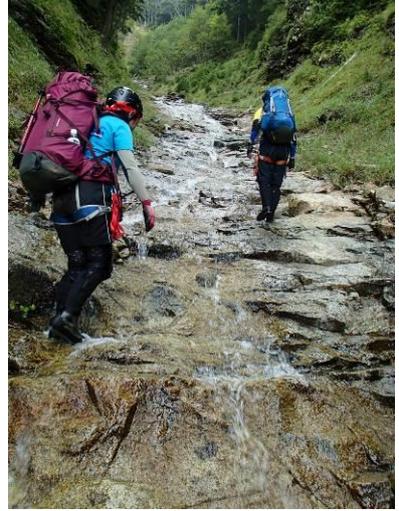


9月11日（日）

3:40頃からテント外の明かりが気になり起きてしまう。多分この先はトイレ場所に当たるため、このテント脇を通過するため、ヘッドライトを照らしていたのである。我慢が出来ず、4:20頃起床して片付け、食事の準備をする。日はまだ出ていない。朝食を済ませた頃に少しずつ明かりがでて来た。曇りの中に青空が見える天気である。本日天気を持ってくれることをお祈りした。食事後は、テントの撤収や沢準備をする。濡れた服を始めに通すのは、いつも嫌なものである。服、靴下とドンドン湿って行き、スパッツを付けた時には戦闘開始モードに入る。他の組は既に出発しており、我々は最後の出発となった。この先は、ゴーロ帯である。なるべく沢に入らないように旧道を拾いながら進み、その先も幕営地出来そうな箇所が沢山あった。薪は沢山あり、ここの方が良さそうであったかなと思った。その先は、ミズシ沢が出て来て右側の沢に入る。未だゴーロ帯が終了しない。斜度は強くなり、その先は大ナメ滝が出現する。右側から登り、最後の30mはロープを出し、登った。木賊沢側か

ら中間の道を進み巻く、このナメ滝後は、美しいナメが続き心を和ませてくれた。  
この頃になると、幾つかの枝沢を通過するたびに水量が減り、ナメの頃にはか細い数量で可愛い。  
ポンプ小屋が見えた時には、ホットひと安心もうすぐである。最後は苔がナメについており、色々な顔を見せてくれた。ポンプ小屋で水を補給して、甲武信小屋に到着した。ヤレヤレである。  
沢準備を外し、私はズボンを着替え、一般ハイカーに変身した。片付けが終わった後、皆さんのご要望に応え、甲武信ヶ岳を目指す。去年は行けなかったな。  
20分程度で山頂に到着した。山頂は百名山であるためか、人込みが凄かった。記念撮影後は、甲武信小屋で昼食を取り、暫しトイレタイムと休憩を取ってしまった。時計を見ると2時間近く滞在したようで、慌てて下山開始する。薪道を通り、戸渡尾根を進み徳ちゃん新道との分岐で休憩を暫し取る。その先1時間弱で休憩を取り、残りはダラダラ下り、西沢山荘に到着した。  
皆で、握手・握手で今回の沢旅の終わりを告げた。  
トイレ休憩後は、駐車場手前の東沢山荘にて、ヨモギ餅、ヨモギ茶を食べ鋭気を養った。  
帰りは、白龍閣（川浦温泉）で、今までの付いた汚れを全て流し落とした。サッパリである。  
入浴後は、国道沿いのラーメン「めん丸」で、エンジンを補給して、勝沼ICより帰葉した。





以上